

活動報告

第 32 回リハ工学カンファレンス in 神戸

土田 浩敬

1、はじめに

皆さまこんにちは。

今回は「第 32 回リハ工学カンファレンス in 神戸」（以下、カンファレンス）に実行委員として参加させていただきました。いつもは、参加するだけの立場だったのですが、今回は実行委員として運営に携わらせていただき、その報告をさせていただきます。

2、概要

日 付：2017年8月23日、24日、25日
場 所：神戸国際会議場

リハ工学カンファレンスの参加者（介助者等の無料参加を含む）339名、同時開催の i-CREATE2017 とあわせたイベント全体として、600名近い参加がありました。

日本リハビリテーション工学協会とは…
障害を有する人々に対し、その生活を豊かに実現するための工学的支援技術を発展・普及させるため、この目的に賛同する個人および団体によって構成されています。（ホームページより抜粋）

3、実行委員として

初めてカンファレンスに参加したのは、2012年のアクロス福岡でした。カンファレンスって何だろう？私自身はよく理解しないまま、参加していたのを覚えています。

それから、盛岡、広島、沖縄と参加して、リハ工学カンファレンスがどういったものなのか、少しずつ分かってきました。参加させていただく中で、やはり同じ障害当事者の発表が気になる所があります。

今回のカンファレンスは、障害当事者にスポットを当てた企画を中心に、会議も進められました。

4、カンファレンス当日

実行委員は8時半に神戸国際会議場集合の予定

です。私は4時に起きて準備し、自宅を6時に出発しました。

私の役割は、開会式の司会と、福祉機器を展示するホールをスタッフとして担当していました。そして、私自身の発表も控えています。

カンファレンスに参加し始めて5年、知らず識らずに、リハ工関係の方達の知り合いが増えていて、沢山の方と出会えたカンファレンスでした。

5、最後に

今回障害当事者として、そして実行委員としてカンファレンスに参加し思ったこと。

今回に限ったことではないのですが、もっと障害当事者に参加して欲しいです。障害者の暮らしをより良くするために、カンファレンスが開催されるわけですが、障害当事者が参加しなければ、議論が出来ないのではないのでしょうか。もっと私達、障害当事者から声を上げて、支援者と一緒になって、未来を作り上げなければならないと思います。私自身もっと広報すべきだったと反省するところもあります。

福祉機器は私達の生活に、密接に関わってくることであり、カンファレンスでは色々な情報を得られる場所でもあります。

これから先、もっと魅力のある場所になるよう、私達も努力して行かなければならないのでは、と感じた次第です。

来年は神奈川県厚木市で行われます。ご興味のある方、そうでない方も是非参加して、盛り上げて参りましょう。